

会議の概要（議事録）

会 議 の 名 称	(番号) 1-49	墨田区基本構想審議会 第1部会（第3回）		
開 催 日 時	令和6年9月27日（金） 18：30から20：40まで			
開 催 場 所	すみだリバーサイドホール イベントホール			
出 席 者 数	【委員】加藤久和（部会長）、相澤純一、阿部貴明、老田勝、井上佳洋、 島田泰子、森山育子（計7名） 【事務局】楠政策担当課長、政策担当主査（原）			
会 議 の 公 開 （ 傍 聴 ）	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	5人
議 題	・ 前回の振り返り ・ 特別講演 ・ 文化・スポーツに関すること			
配 付 資 料	1. 次第 2. 産業分野における未来予想図（案） 3. 基本構想検討シート 4. 佐久間委員提供資料 5. 委員アンケート（抜粋）			
会 議 概 要	1 事務局からの伝達事項 事務局より本日のテーマについて説明を行った。 2 審議 (1) 前回の振り返りについて 事務局より資料1について、説明を行った。 (加藤部会長) この第1部会での前回での振り返りの中で、皆様方からいただいた意見をご確認 いただき、それから産業振興についての10年後の未来予想図の「挑戦し続ける」 「価値を理解し応援する」「自分に合った働き方ができる」この3項目がこれで適 切なのかどうかそういったことも踏まえて委員の皆様方からご自由にご意見をい ただきたい。 一言だけ申し上げたいのは、軸をどう作るかということ。工業と商業、それから 既存と新規という2軸で考えたときに、それぞれの政策はどこに位置づけるのかと いうような形で整理していくのも、1つのやり方というふうに感じた。 事務局の説明を受けて、まず前回のご意見、あるいはこの3つの項目について、			

話したのに盛り込まれていないのではないかと、項目はこの3つでいいのかというようなことをご自由にご意見等いただきたい。

(阿部委員)

うまくまとめている様子で、全体的に決して悪くないかなというふうに思う。商業と工業をあえて分ける必要はあまりないと私も思う。先程事務局の説明で、半ものづくり、半工業の話があった。最終的にその「半」は多分どこにも出てこないのが構想では使わないと思うが、お店で付加価値が付いた商業、典型的には製造直販のようなもの、パン屋さんにしても、洋菓子屋さんにしても、あるいはたくさん増えてきたコーヒーロースターさんにしても、例えば大手ブランドオーナーさんが作ったブランド商品を並べて売るよりも、自分で選んできた生豆を自分で焙煎をして量り売りをする、量り売りをしながら、場合によっては実際にコーヒー用として飲食としても提供するような、商業のところでも、最後のひと手間なりこだわりを表現した付加価値商品、あるいはサービスを提供しているお店、結果的にそういうお店しか残らないだろうと思われる。大手ブランドオーナーが作ったものを並べて、1円でも安く売りたいパターンは大規模店舗に一定程度お任せをすれば良い。そういう意味では、老舗という言葉もあったが、当区で言うと「銘品名店会」にあるような和菓子であったり、それ以外の食品であったり、飲食店も、飲食提供だけじゃないお土産用の何かを提供したりもあるので、銘品名店会が全てかどうかは別として、銘品名店的なもの、ものづくりの一部だろうと思うし、それから伝統工芸も、当然ものづくりの中に入れてしかるべきだろうと思うので、前回は伝統工芸品については具体的に触れられてなかったかもしれないが、どこかで伝統工芸も盛り込むべきだと思う。特に、この挑戦し続けるっていうキーワードについて、ずっと魅力的であり続けている、同じものをずっと売り続けたとしても、すみだブランドについて検討したときの議論にもあったが、エバーグリーンのものはエバーグリーンでいいと思う。仮に100年前から同じものだとしても、ずっと新鮮な価値を提供し続けられているのであれば、あえて変わる必要はないということもあるので、サステナブルであったり、コンティニューイティーであったりというところを、挑戦し続けるっていうことに表現したのは良い。

価値を理解して応援するも、良いワードだと思うし、自分に合った働き方ができるも、働き続けたいまちの表現としては決して悪くない。

ただ一点だけこれ皆さんの感覚とそれから行政の方の感覚もお聞きした上でうまく表現できるといいと思うが、「自分に合った働き方」で「働き方」と「住み続けたい」この2つが、ワークライフバランスという言葉ができて、ワークとライフが対立するものみたいになってしまっている。なので、何か仕事は奴隷のように労働させられて、ライフは楽しむものみたいな。仕事と余暇が相反するような位置づけになっているが、私はどちらかというとライフとワークが一緒であることが多い。以前出てきた職住一体とも連動するところで、仕事の時間とプライベートの時間がシームレスになっていることが地場産業的には重要なのではないかと感じる。

(老田委員)

産業振興の最初の文章のところ、新たな価値を創出し続ける、結局何をするのか

というと、価値を作ると言っているが、ものづくりのまちと培われてきた技能を礎にということは、この先はものづくりから脱出するのか、この先も、ものづくりでいくのか、ややわかりづらい。最後の部分では自分らしく働き続けるとなっているので、ものづくりなのか価値づくりなのかというのはわかんないと思った。価値づくりという言葉を使うのが良いかどうかかわからないが、ものづくりのさらに上を行こうというような意味で言ったら、新たな価値を創出ということだと思うので、それを何か綺麗な言葉でまとめられると良いと感じた。

それから、確実に本所辺りはベッドタウン化していて、10年後はいよいよベッドタウンになりそうな雰囲気がある。産業振興を考えたときに、ベッドタウン化していくという実情と、その中でやっていこうとする産業がどういうふうに関存、バランスをとっていくのかということについては、もう少し検討が必要である。品物を買ったら価値が理解できて、工場の音がうるさいけど我慢できる、というような話にはならない気がする。そこについては、後からできる住居が既存の事業者から出る音とか臭いとかそういうものから、新たな住民を守るような指導を区としては行い、共存しやすいまちができていくということをアピールしないと駄目なんじゃないかと思う。

(加藤部会長)

ものづくりから価値づくりって確かにいい言葉で、素晴らしい表現の仕方だなと感じた。

(井上委員)

聞いていて、私も全体的にわかりやすかったなと感じた。今後議論していくということだが、ものづくりとは何かを定義するということに、ものづくりというのが、ひと手間加えて、それが触れられるものみたいな感じで、私自身はすごくイメージしやすいと思った。しかし、あえて工業系と表現するが、そこでもものづくりをやっている方に、その表現が伝わるかなというのが若干ある。例えばネジとかをずっと作っている、いわゆるものづくりをしている方に、ひと手間加えてそれが触れられるものみたいな定義だと、そういう人たちの製品は、ご自身の中でのひと手間はあるにせよ、それが消費者の方に多分伝わらないし、触れられることもあまり無いのだろうなと。私自身は結構わかりやすかったが、工業系のものづくりの方たちにはちょっとわかりにくいのかなというのがある。全体としてはわかりやすかったので、今回と前回の議論であったものづくりとは何かを改めて定義してまとめれば良いと感じた。

(森山委員)

昨日今日と観光関係のDMOフォーラムが草津温泉で開催されていて、今草津から帰ってきたところ。講演の中で町長さんから、草津温泉のまちづくりについてお聞きした。その中でまちづくりは景色作りであり、物語作りであり、草津には温泉という観光しか資源がない。だからこそ特化する。産業が、それしかないからこそ特化するんだと話していたのが、すごく明確でわかりやすかった。

しかし、墨田区はものづくりもあれば、スカイツリーや国技館、花街もあり、た

くさんあるからこそちょっと見えづらくなっていることがあるのではと
思っている。色んなものがたくさんあるがゆえに、わかりづらくなっている
のではないかという中で、私は、ものづくりはすごく素晴らしいことだと思っ
ているし、すみだのまちの歴史も含めて大切なものだとは思っているが、墨田区とい
うものを、区民、区外の人たちも含めてどのように見せていくのか、見える化して
いくか。私達は、すみだはこういうまちだと言おうとしたときに、どういう
まちだと言えるのかと自分自身が考えたときに、うまく言葉が出てこない。ものづ
くりのまちですと言って、それが正しいのかと言われると、正しいのだけど、全て
がそうではない、ものすごく曖昧だなと思っている。ただ、やっぱりものづくりは
すごく大事なことだし、せっかくここまで大きくなり、すみだモダンも含めて力を
注いできたものを否定するものではないので、何か核となるものが、ものづくりで
あるならば、それらを含めてすみだというまちが相対的に見て高付加価値的で、外
から見たときにこれは素晴らしいというものができるといいなと思っている。

（島田委員）

昔は墨田区というと、墨田区ってどこにあるのって言われていた。でも今は、ス
カイツリーもあって、すごいいい街だよなと言われる一方で、スカイツリーの他に
何があるの、とよく言われる。

そうするとスカイツリーが印象的であって、スカイツリーの中はすごいが、外側
を見るとやっぱり閑散としているのかなと。業平の周りや商店街がもう少し活性
化できたらなと思っている。

でも、この挑戦し続けるとか、この三つのキーワードはすごく素敵だなと思って、
この商業とか産業だけじゃなくてね、いろんなところに落ちるなと思った。

（相澤委員）

ちょっとこれを読んでいて思うのが、老田委員からもあったように、文言の選び
方とか、もうちょっと工夫しないといけないのかなというところがあって、例えば、
産業振興の最後の文章だと誰もが自分らしく働き続けられるまちとなっているが、
最終的に基本構想は、区民に向けた基本構想になると思うが、働き続けるまちだと
区民以外の人になってしまうのかなと思って、そうするともうちょっと違う表現に
なるのではないかと感じた。

それ以外は前回のいろんな話をよくまとめていただいたと思う。

（加藤部会長）

相澤委員のお話の中でもあったが、最初は自分らしく働き続ける。下の方は自分
に合った働き方と、ここは何か整合的な何か意味があるのか。

（事務局）

自分らしくという表現の中にはその様々な形があるという中で、上の言葉と下の
言葉を完全一致させすぎると、そこで受け取り方の幅が失われてしまうかなという
ところがあるので、あえて上の文章と完全一致する形ではなく、表現を少し変えた
というところ。ただ逆にそれがわかりにくいのではないかなというような率直なご指

摘もあるかと思うので、そういったところを本日も色々ご意見いただいたので、ブラッシュアップを繰り返しながら、最終的にまとめていく作業に進めていきたいと思う。

(阿部委員)

今まで工業という言葉ではなく、ものづくりとずっと言っている。それはものづくりとは元々その職人芸的なもので、それがいわゆる工業、さっきのネジの話もそうだが、メッキだろうが、塗装だろうが、なめし革だろうが、人が介在をして一定の職人技の中で、価値を創造しているものづくりに、多分この区はずっと特化してきたと思う。

結果的に装置産業的な大きな工業は、スペースのこともあるし、外に出ていく。大きな仕事、装置産業的な仕事をし始めたところはずぐ出ていくので、そういう意味では先ほど言った伝統工芸なんかも含めて、あるいは製造業も含めて墨田区というものづくりは、より人によったものづくりで良くて、あまり本当の工業的なものづくりでなくて良いのではないかと思う。なので、集積も重要だということにも繋がるし、それから相澤委員が言われた通り、大きな会社いろんな人が来て仕事をしているというのも、自分の家で仕事しているというイメージのものづくりで良いのでは。住んでいる人イコール仕事している人、あとはそのベッドタウンのところについては、ものづくりとはちょっと別の問題であると考えてよいと思う。

(2) 特別講演

今井悠介氏による「子どもの体験格差」に関する講演を行った。

(3) 文化・スポーツに関することについて

(加藤部会長)

次第に従って次の議論に移らせていただく。

本日は文化・スポーツがテーマとなっている。前回同様議論をしっかりと集約させていくため事務局の方で次第に記載の通り2つのテーマに分けていただいた。

それぞれのテーマで30分を目安にご議論いただき、最後に事務局の方でまとめていただきたいと考えている。

議論に当たっては、前回と同じように、最初に1周皆さんからご意見をいただきたい。

議論を始めるにあたり、それぞれのテーマにおける議論の考え方と資料の基本構想検討シートについて事務局からご説明をいただく。

事務局より資料2について、説明を行った。

(加藤部会長)

それでは一つのテーマにつきおよそ30分程度を目安にそれぞれ意見交換を行いたい。最初に文化振興についてお1人ずつご意見いただきたいが、その前に今日は

佐久間委員がご都合により欠席となっているが、事前に資料のご提出をいただいているので、初めに事務局からご説明いただき、その後阿部委員から順にご意見をいただきたい。

(事務局)

それでは、佐久間委員からご提出いただいた資料について説明する。資料3をご覧いただきたい。抜粋した形で紹介させていただく。

まず3番目、文化芸術基本法の前文には、文化芸術を享受できる文化的な環境の中で生きる喜びを見出すことは、人々の変わらない願いであって、文化芸術は人々の心の繋がりや、多様性を受け入れる心豊かな社会を形成するものであること、それぞれの時代における国民共通のよりどころとして重要な意味を持つものであるということが記載されている。

また2ページ目の4番、区が定める墨田区文化芸術振興基本条例の中でも、この文化芸術の持つ力については、産業、観光、教育、福祉コミュニティ作りなど幅広い分野において効用を発揮し、地域の活性化や絆作りにも寄与することが期待されており、幅広い分野の連携を含む、総合的な文化政策の推進が求められている。

3ページ目の6番に記載のとおり、音楽都市構想の発表、新日本フィルハーモニー交響楽団とのフランチャイズ提携、トリフォニーホールや北斎美術館の開館があったほか、国技館5000人第九コンサートが今日まで続いている。これらを踏まえ、一番最後のところで文化芸術振興に関する所見を七つ挙げていただいている。

1つ目、今後とも墨田区では誰もが身近に文化芸術に触れ、これを鑑賞し、またはこれに参加することができる環境の整備に努めてさらに発展させていくべき。

2つ目、今あるトリフォニーホールや北斎美術館はまちの大きな魅力であるので、この文化の創造発信拠点としての存在を大いに活用して魅力的な事業を展開していくべき。

3点目、音楽ホールや美術館が、地域の中の区民、とりわけ子どもたち、社会的弱者の人々とともに文化芸術活動を創造して文化に触れる機会の確保を目指していくべきであり、学校や福祉施設との連携によってアウトリーチを展開して、社会課題の解決に繋げていきたい。

4点目、芸術は精神的な心の支えや豊かさや活力を生み出すとともに、人々を繋げて連携させる力があり、地域力を高めることに繋がる。文化芸術の力をもって産業、観光、教育福祉のコミュニティ作り多文化共生など幅広い分野に対して地域活性化や絆作りにも寄与できるものとする。

5点目、コロナ禍以後、すみだ北斎美術館には多くの観光客が訪れ、葛飾北斎の世界的な魅力が再認識されており、世界に誇る偉大な芸術家を顕彰する美術館としてまち全体のシビックプライドに繋がるよう、今後も充実した事業展開を行ってきたい。

6点目、墨田音楽都市構想を将来像として掲げ、今日までオーケストラを核として音楽都市づくりを続けており、1985年スタートの5000人の第九コンサートは、今なお引き継がれている。区内全小中学校の音楽指導事業や音楽鑑賞教室など日常的にアウトリーチ活動も引き続き推進していきたい。

7点目、令和5年に墨田区出身の五街道雲助師匠が人間国宝となった。文化振興

財団では今後日本の伝統文化である落語の事業にも力を入れて定期的な事業の開催を検討している。

以上、佐久間委員よりご意見をいただいている。

(阿部委員)

各論というよりも、基本的な考え方の中で、文化芸術周りを議論するときに、保護するみたいなことにはしないことが結構重要だと思う。ワード的にも文化芸術振興となっていて、ちゃんと成熟するというか、熟度を増し続けられるような文化振興をちゃんとやると、そのためには、史実を検証してそれをただ大事に守り続けるみたいなことにならないようにするべきだろうと思う。つまり、大衆に支持され続けるような文化を振興すると。ここで言う大衆は区民で、区民に支持され続ける文化、あるいは訪れる方に支持されることでもいいと思うが、決して大事に守り続けるみたいなことにならないということが重要だろうと思う。

一点だけ各論で、行政的に、残念ながらずっとうまく取り扱ってこれなかったのが神社仏閣。先程の講演の中でも地域のお祭りの話が出たが、小村井の香取神社の祭礼について、文化財指定をしていただける可能性があるということで、役所が基礎調査に来ていたが、結構画期的だなと思った。神社あるいは寺について、宗教ではあるが、地場に根付いた文化であることは間違いない。そこで行われていること、あるいはそれをベースに繋がりができていることについては、私は積極的に行政としてもうまく取り組んでもらえるといいと思う。文化振興財団さんも音楽だったり北斎だったりはやっているが、神社とお寺については一切触れてはいけない領域みたいになっている気がする。観光協会がいくら頑張ってお祭りを応援しても、それ以上なかなかうまくいかない。何とかならないかという気はしている。

(老田委員)

文化や芸術の部分の話について思っていることがあって、北斎があったり、トリフォニーホールがあったりするが、それぞれがそれぞれの拠点でやっているが、もっとそれをとがらせることが必要だというふうにも思っている。色々な博物館があるが、ただあるだけで今は終わっている雰囲気がある。

場所の配置を見てみると、北斎通りのところはかなり集約していて、拠点がポツポツとあるという考え方じゃなくて、一定のエリアを完全に芸術のまちやエリアというふうに決めてしまって、明確に色をつけるという感じが良いのではないか。そこで例えば検討シートにも総合的芸術祭と書いてあるが、例えば「北斎通りトリエンナーレ」みたいな、そこで総合的芸術祭をやって、その中でそれぞれの拠点も生きてくるし、交通量に比べると道路もかなり広く、まして区道でもあるので、区の中の制度で色んなことができるんじゃないかと思う。そういうことをやるとなれば、合わせていろんな整備をしていくということができると思うので、先端の専門の文化芸術が集約され、それに引っ張られて区民の文化芸術のレベルも上がっていくみたいなことがあれば良いと思っている。今ある博物館が必ずしも現状で核になっているとは思えなくて、もっと大きな塊にすることによって、普及力の強い核にできるんじゃないかと思う。

(井上委員)

佐久間委員の資料にある1番目の「誰もが身近に文化芸術に触れる」という言葉、多分ここが一番なんだろうなと思っている。これだけ色んな芸術とか文化が出てきていて、それを誰もが身近に触れられ経験できることが大事なのかなと思っている。そういう意味でいくと今まで墨田区が音楽都市作りで、あえて「音楽」というところにスポットを当ててやるというのを、今後も続けていく方が良いのかどうかは、若干そこが目立ってしまって、様々な文化に触れる機会が逆に減少してしまうのではないかなと思うことある。なので、色をつけるっていうのはある意味賛成でもあるが、色をつけちゃうと誰もが色んなものを知る機会が逆に減るのかなという思いもあるので、バランスが結構大事だと思っている。すみだらしい文化となると、先程阿部委員のおっしゃられた神社仏閣とかが本来であるべきかなとも思う。

この辺も考えるときに、ハード面とソフト面を分けて考えた方が良いのかなと思う。北斎美術館やトリフォニーホールは、完全なハードであって、そこをどうしていくのかということと、通常の文化芸術に触れるソフト面としてのものは全く別物なので、それぞれ分けて文化芸術、文化振興というところに関しては考えて、区民の方がわかりやすいように、伝えていくのが必要なかなと思っている。なので、個人的には老田委員おっしゃられたように、色をつけた方が他の分野、観光とか商業的にはすごい親和性が高く、人も集まりやすいし、

そういうやり方もあるかなというふうに思う。ただ、今は色んな文化芸術がどんどん出てきていて、それを文化だと捉える方が多いので、佐久間委員が1番におっしゃる、誰もが身近に触れる機会をもっと増やした方がいいのかなと思う。

(森山委員)

私はちょっと大きく2つかなと思っている、どうしても観光の視点で入ってしまうが、1つは「江戸から」というのと「江戸以前」というところがあって、先程阿部委員の方から、文化振興は史実の検証、守り続けるというものでもないというお話があったが、文化がなぜ生まれたのか、なぜすみだにその文化があるのかを学ぶことは、この文化を広めていく中で必要なことだと思っている。ただ、史実といっても常に忠実である必要性はないと思っているが、ストーリー性として、なぜすみだにこの文化があるのかということは、やっぱり根本的なところとしてある程度知っていてもいいのではないかな。

例えば、なぜ墨田が音楽のまちになったのか。そもそも第九があったから墨田は音楽のまちになっていった。国技館が戻ってきて、喜びの声を歌として歓喜の歌を歌う、このとき第九の歌を歌った。それが発展していった、新日本フィルハーモニー交響楽団が誘致され、音楽のまちになっていった。そもそも何で国技館があるのかを突き詰めていくと、回向院があることにつながる。やはり全体として江戸から生まれた、例えば北斎美術館や、江戸東京博物館、大きな集客施設であり、大きな両国の文化、文化的な建物の一つであるというふうに考えたときに、あれも基本はやはり江戸。江戸から生まれた文化というものをうまくストーリー性を持ってそれぞれを結びつけていく。だからすみだは文化を大切に、江戸からの文化を大切にしていってという考え方もあると思う。

方や、江戸以前、回向院を除いて、神社仏閣の大半は江戸以前からあると思って

いる。それらは本当に庶民に根付いてずっと守られてきた、それぞれのその神社仏閣のありようだと思う。その中で一つだけ、最近吾嬬神社に行ってきた。吾妻橋の由来の一つと言われている吾嬬神社。この吾嬬神社は、昔はあそこが海の海岸線の際に近かったというところもある中で、吾妻橋の起点となっている神社である。あの神社に今氏子さんがいるのか、いないのかも分からず、ちょっと寂れた感じになっている。氏子がいる神社、氏子がない神社、古い神社だと思うが、そういったものも含めて神社仏閣に色を付けられているのか、区として色をつけるかわからないが、氏子がいるから庶民が守ってきた。でも、行政としてすみだに由来のある神社を守っていくべきなのではないのかなと思う。最近行ったばかりで私の中での熱い思いとしては吾嬬神社を何とかしたいという思いがある。

（島田委員）

私は子どもの立場というか、未来を支える墨田区の子どもたちは、すごく得しているなと思う。トリフォニーホールで必ず小学校の5年生、6年生になったらオーケストラ鑑賞教室に行ける。それから連合学芸会で、トリフォニーホールで合唱できる。それがすごく素晴らしいなと思っている。子どもの体験格差の話があったが、多分家庭だけだったら、墨田区割はあるけど、トリフォニーホールコンサートに行こうとなっても、行っていないんじゃないかなと思う。でも必ず11月には、5年6年になったらオーケストラを聴ける。それから北斎美術館に関しても、社会見学に盛り込んで、その社会見学も墨田区はバス代とかも全部出していただいている、これから育っていく子どもたちがいっぱい恩恵にあずかっている。子どもたちが大きく育っていく中で、トリフォニーホールや北斎美術館が浸透してくれていいが、大人になったときに、墨田区から出ていってしまったら残念だなと思うので、そこをどうやって止めていくか。

あとジュニアオーケストラやすみだ少年少女合唱団というのもある。5000人の第九コンサートも各小学校や中学校の方に指導が来ていて、これもずっと続けてほしい、墨田区にいられるからこそ、そこに入ったよというような形でいけたらなと思っている。そういった墨田区の文化財を有効に子供たちが活用できると良い。

神社とかお祭りもあるが、墨田区の子はよく地域のお祭りにも行っている。

とにかく子どもたちが経験したことを糧に未来を背負ってってくれたらなというのが想いである。

（相澤委員）

私はいくつかの自治体に住んでいたことがあるが、その中でも墨田区は四季を感じやすい文化が大変多くて、春には桜まつりがあって桜を見たりとか、夏は花火があって、秋はお祭りがある、冬は七福神巡りとかがある。これらの文化は続けていったことで文化になっていると思うので、続けていくことが大事なのかなというふうに思っている。

トリフォニーホールの文化もずっと続けていることで、子どもたちが恩恵を受けられる文化になっていると思うので、これからも続けていくことが重要だと思う。

その中で新しい文化も生まれてくると思うが、それも続けていくことで墨田区の文化振興に繋がるのではないかなと思っている。

今、例えば毎週のように隅田公園や錦糸公園でイベントをやっているが、1回で終わることなく毎年のように続けていけば、それが文化になり、人が集まって、振興になるのではないかと感じている。

ただ、たまたま私が向島エリアに住んでいるから感じやすいだけなのかもしれないが、ちょっと中心部から離れているって言い方は失礼かもしれないが、そういう地域の人からすると、感じにくいものなのかなとも思うので、そういう人たちを取り残さないようにしたり、あとは老田委員が以前おっしゃっていた、家に帰ってただ寝るだけの区に興味が無い人達を、どうやって取り残さないで、文化に触れられるようにするかっていうのは、課題なのかなと感じている。その辺は多分他の部会でコミュニティについて話していると思うので、どうやって連携をしていくのが重要になるのかなと思う。

(加藤部会長)

今皆さんのお話を伺った中で一般的な話かもしれないが、2つの軸があるのだろうと思う。1つはやっぱりその伝統をいかに継承していくのかということで、例えば先ほどの神社仏閣の話もあった。一方で、その軸の反対側には新しいものを創造していく。ここで言えばアートプロジェクト「すみゆめ」のようなもの。そういった軸と同時にもう一つの軸というのは、参加するということ。例えば区民の方々がいろんなものに参加していくのと同時に、逆のところでは先程専門的な芸術の保護、あるいはそれを広げていく。トリフォニーホールでは様々なオーケストラを呼んでくることや、その逆の参加では小学生・中学生が参加していくと。こういった軸で基本構想をまとめていくという手もあるのかと思っている。

文化芸術に関して、一通りお話いただいたが、さらに何かもう少し付け加えることがあるか。

(井上委員)

加えるわけではないが、今伺っていると、文化は子どもとかに継承して伝えなきゃいけないことと、自分の生活の幅を広げるというか、色々経験していく中で新たに知るものがあるって、島田委員のお話を聞いていて、伝えていったり、残していかなきゃいけない文化もあれば、新しいものを知るというのも、全く別物なのかなと思った。どっちもすごく大事で、そういうのを伝えていかないといけないんだなと感じた。

(森山委員)

アイデンティティじゃないが、その子どもが、子どものときに経験したこととか、まちの文化として感じて参加してきたものっていうのは、その人のアイデンティティの一部になっていくのだと思う。

そういう意味では子どもの教育だったり、人格、人間形成っていう中の一つにやっぱり文化というのがものすごく大きく位置づけられるんじゃないかというのは改めて聞きながら思った。

(阿部委員)

さっき吾嬬神社のお話をされたが、これが外に向かってアピールしていくポイントかどうか結構微妙だと思うが、少なくとも立花エリア、その一部の人たちは相当程度プライドを持っている神社であることは事実で、第一吾嬬小学校の後にできた立花吾嬬の森小学校の学校名は、吾嬬神社からきていることから、その学校に通っている子どもたちは、少なくとも吾嬬神社を知らないということはない。

立花の地名そのものが吾嬬神社ゆかりの弟橘姫（おとたちばなのひめ）に由来するので、少なくとも立花のエリアに住んでいる人たちにとってみると、吾嬬神社は大事な鎮守の杜であることは事実。ご覧になられたように無人で、交代で宮司さんが別のところから入られていて、氏子はもちろんいる。ちゃんと縄張りはあるけども、あそこでのお祭りとか縁日はない。ちゃんと神社としての氏子エリアは、川沿いにずっと団地の裏の方に一部、非常に短い狭いエリアだが、今話していて自分でも思うが、マニアックすぎて、それって多くの人たちに何か意味があるのか。

なので、吾嬬神社の件は、あのエリアの地域プライドの中でいいんじゃないかと思う。

(森山委員)

吾妻橋の名前の由来が、浅草の東側だから東なのか、吾嬬神社に向かう参道になっているから吾妻橋ってなったという二つの云われがある中で、吾妻橋の名前の云われになっている神社が何だかよくわからないので、多分知っている人はすごく少ないんじゃないかと思うが、古い人は知っていると思う。なんかちょっともったいないなと思った。

(加藤部会長)

時間の関係もあり大変申し訳ないが、次のテーマに移らせていただく。

2つ目のテーマはスポーツの振興。これについても、またいろいろとご意見を伺えればと思うが、まずは島田委員からお話をいただきたい。

(島田委員)

私は墨田区スポーツ推進委員だが、以前は墨田区体育指導委員という名称だった。平成23年のスポーツ基本法が改正されてから、スポーツ推進員になり、それまで指導がメインだったところから、地域と行政、地域とスポーツの連絡調整、コーディネーター役割の役割を担ってきた。

私達が求めているスポーツというのは、競技スポーツではなく、よくスポーツというと、何か自分の記録を伸ばさなきゃいけないと思うかもしれないが、それは競技スポーツであって、スポーツ推進委員は地域の人たちがいかに体を使って、楽しい何かができるかということで、ニュースポーツ、皆さんよく知っているボッチャなど、どこでもすぐに何かできるように、また、地域の人たちの健康寿命をどのように伸ばしてあげたらいいか、コミュニティづくりとかそういったことを目的に活動している。

今は色々と忙しくて、10月の5日、6日はすみだまつりがあり、その翌週にはスポーツの日で、ひがしんアリーナで区民の体力テストや午後にはファミリーで楽し

めるようなスポーツを行う。その次は障害者やその家族を対象としたスポーツレクリエーション大会があって、本当に誰でも、障害のあるなしに関係なく、皆さんでスポーツを楽しみめることが私たちの目標としているところ。

墨田区は縦長で、北部と南部にわかれているが、北部は第四吾嬬小学校、南部は外手小学校で、隔週で「ちょっと楽しいスポーツ教室」を開いている。その中では、ラージボール卓球とか、ふわふわのボールを使ったミニテニスだとか、ビーチボールバレーといった種目を行って、みんなでスポーツを楽しんでいる。また、ポッチャを広めるために、ボールを製造しているナガセケンコーや、スポーツ協会の方と一緒に協力して、昨年第1回のポッチャ大会を開催した。

このようなイベントの情報発信をしたときに、出てこれない人をどうやって取り込んでいけるかが私たちの課題。町会の回覧板を利用したり、そういったところで少しでも、年齢関係なく子どもから高齢者まで、皆さんで楽しめるようなスポーツを企画したりして運営しているところ。でも、全部が年齢バラバラではなく、今日は小学生対象、高齢者対象というような形でもやらせていただいている。

生涯スポーツということで、ずっと本当に健康であり続けるために、墨田区の皆さんに何か提供できたと思っている。

(相澤委員)

まず生涯学習に関しては、図書館や博物館が大変多くて、学習が楽しめる環境にあると、他の自治体から引っ越してきてそう思う。ただ、図書館は憩いの場というか、ゆっくりできるような状態ではなく、席も大体埋まっているし、みんな勉強していたりして、ハード面は変更ができない部分もあるが、その辺の課題をどういうふうに取り組んでいくのかなと感じている。

スポーツに関しては島田委員がおっしゃるように、ポッチャやボクシングのイベントをやるようになって、とても魅力が増えたように感じている。

ただ、やはり墨田区というと相撲が出てくると思うが、本当に相撲のまちといえるかはちょっと疑問。多くの小・中学校に土俵があるわけでもないし、相撲部がたくさんあるわけでもない。相撲の聖地ということであれば、まだ理解はできるが、相撲のまちというのを打ち続けるのであれば、何か課題としてあるんじゃないのかと感じていて、基本構想の中に入れていくのには課題があると思う。

また、台東区にはリバーサイドスポーツセンターがあって、体を動かしている人がたくさんいて、体育館もあり、外にプールもあって、陸上競技場も一緒にくっついていて、羨ましいというか分かりやすいというか、とても使いやすいんだろうなと思う。どうしても墨田区は、ひがしんアリーナが錦糸町にあって、陸上競技場が鐘ヶ淵にあって、点が線になってないというか、そういう課題もあると思う。

例えばすみまろくんバスをひがしんアリーナから陸上競技場まで繋げるとか、他のテーマにも言えることだが、点を線にしていけるのをどうしたらいいのか、面にしていけるにはどうしたらよいかというのが課題なのかなと感じている。

(加藤部会長)

私も一言だけ、生涯学習といったときに、一つは自分自身を豊かにする、あるいは人々の気持ちを豊かにする生涯スポーツも含めてという面と、それからリスクリ

ングみたいなものをどうやって入れていくか。これは産業振興とも関係してくるが、その二つの軸で、少し墨田区で何ができるかというのを考えていく必要があるかと思う。

それからスポーツに関して言えば、島田委員がおっしゃったことと同じかもしれないが、やはり健康との関連もあるし、高齢化社会の中でいかにして健康寿命あるいは自分自身で体を動かせるかということも関係してくる。そういったところも踏まえながら、高齢化の問題とも絡んで考えていく必要がある。

(阿部委員)

生涯学習とスポーツ活動について、学校のクラブ活動で今そういうふうに言うのかはわからないが、文化部、運動部どっちみtainなのがあると思うが、生涯学習の方はどうも文化部っぽくて、スポーツの方が運動部っぽい。改めてスポーツ活動というよりも、基本構想でいうものは、生涯スポーツと明確に言った方がいいんじゃないかと思う。生涯学習、文化活動と生涯スポーツ活動とされたら話は明確なのかと。

そうすると目的は長寿社会の中で健康寿命を延ばしながら心も体も健康で文化的な生活を続けることができる環境をつくるという中で、文化活動もあるし、スポーツ活動もあるのだと思うが、この資料の中にある、生涯学習センターの活動については、一定の役割を終えたのではないかと感じる。

なぜ終わりという感じがするかというと、昔からある、例えば地域のラジオ体操とか、あるいは最近だと区民サークルで、例えばランニングのサークルとか、あるいは学校単位で昔からあるような卓球をやったり、バトミントンをしたり、それを大人たちだけもあるし、子どもを指導したりと、一定程度区民サークルが充実してきているので、行政としては区民サークルをしっかり支援をする、あるいは区民サークルを繋ぎ合わせるというようにされるといいのではないかと。

先程の第九の話なんかも第九を国技館で歌うのを目標にして、区内中に合唱サークルがたくさんできてきているので、それも生涯学習の一つ。なので、行政が教室を提供するとか、皆さんを募って何かをするというよりも、もう既に相当程度出来上がっている区民サークルをしっかり支援をする、繋ぎ合わせるというのが良いのではないかと思う。

それと、先生がおっしゃられるリカレント教育のところは、ちょっと全然別の問題なので、産業振興ともう少し合わせたところで何かできるといい。

あと一点だけ相撲に関して言うと、小学生の相撲人口は、墨田区が圧倒的に依然として多い。わんぱく相撲への参加も墨田区から参加する子は多い。

土俵のある学校は、吾嬬第二中学校があるが、今更全ての学校に改めて土俵を作るというわけにはいかないが、わんぱく相撲みたいなものとか、あるいは相撲文化の中で相撲甚句をやるとか、スポーツと同時に地場にある文化として、部屋も少し増える傾向に戻りつつあるので、出てしまったところも呼び戻しながら、墨田区の日常の中に相撲部屋がもうちょっと見えてくると、ずっといい感じがする。

そういう意味では相撲をやっぱりテーマにして集積を作るっていうのは決して悪いことではないかなと思う。

(島田委員)

学校には相撲マットはある。わんぱく相撲のときにそれを出してきて子どもにやらせている。

(阿部委員)

本当にわんぱく相撲はすごい。墨田区のわんぱく相撲は一流だと思う。

(老田委員)

元々住まいが両国なので、子供の頃何の道具もいらずにその遊びとして当然子ども同士の間ではやっぱりやっていたし、結局道具がいらないっていうのはすごく有利。サッカーなんかもボールが1個あればできる。

健康に繋げて、スポーツという意識っていうのは、日本人の誰もが持っている考え方だと思うし、健康のために運動しなきゃというセリフが出てくる。運動しなきゃということで、やっぱりそういう機会はみんな求めていると思う。実際に具現化できる場面は、町中に色んなジムもあるし、パーソナルジムで小さなところでマンツーマンでやったりする場面があったりする。ただ、それがもう少し組織的なスポーツみたいな話とか、広い場所があるものとなってくると、しっかりとした場所だとか準備が必要だと感じた。そのため、スポーツに身近に触れることができるようになしつらえをまちとして準備していくことで、区民のスポーツの参画というのはどんどん増えるのは間違いないと思うので、是非そういうところをまちとして様々なサポートをしてもらうのが良いと思う。

あと、スポーツは必ずしも同じ年齢の人だけでやっているわけではなくて、子どもたちは学校では同じ年齢同士の付き合いしかないが、世代間のコミュニケーションみたいなものを得られる場面としてもスポーツはあるのかと思うので、そういった意味でも考えていけると良い。

(井上委員)

ここで言うスポーツの定義も考える必要がある。先程島田委員がおっしゃられた、スポーツというものをある程度手軽に楽しく健康寿命を延ばすという目的で捉えるのであれば、この時代絶対必要だと思うので、競技用のスポーツだとそれなりの場所とか必要になってくるが、議論で出てきたスポーツというのは、もっと身近にできることなので、例えば公園とかでも公園のルールを緩和してあげて、やりやすい環境を作っていければ、色んな人が参加できるようになる。

アートとかと違ってスポーツは本当にわかりやすいので、これから健康寿命だけでなく、色んな人と一緒にやるということが、それも多分健康寿命に繋がることだと思うので、スポーツというのはどこの行政でもかなり大切、重要なことなのだろうなと思っている。多分どんどんスポーツやることで、商業とかにも繋がってくるのかなと思う。競技用のスポーツでいうと、そこに人もたくさん集まってくるし、そこに商業的な面も出て商業振興にも繋がるとも思っている。

生涯学習の方に関してだと、先程相澤委員がおっしゃられたように、ハードがあっても、若い子たちの勉強の場に使われてしまっている。場所や箱があったとしても、席は限られていて、そこは毎回同じ人が同じ目的で使われていて、その人にとってはいいい勉強環境だと思うが、色んな人が生涯学習、勉強できる場所、改善して

いく場が少なくなってきたと思うので、今回そういうところは少し踏み込んで改善していった方が良く思っている。

（森山委員）

生涯スポーツというと、ラジオ体操とかすみだで言うと花体操とか、盆踊りのイメージを持っている。体を動かすというところでは、すみだの中にはラジオ体操の会が、公園ごとにあって、朝歩かされているシニアの方を中心に、6時半のラジオ体操をされているというイメージがとても強い。これも一つのスポーツだし、盆踊りは夏場だが、町会単位で本当によく実施されている。踊りを踊りたい方もすごく多いまちだなと思っている。だからある意味根付いていると言えば根付いているのだろうが、先程島田委員がおっしゃったように、何かの大会とか何かのイベントみたいなものをやろうとすると、なかなかその集客をすることについて、どこにどう声かけていいのかわからないというところがあるのだと思う。だから、イベント的なものと、日常の継続としてやられているものというのはちょっと違うと思っていて、比較的日常的なものはやられている方は継続してやられているというイメージを持っている。

生涯学習については、私の中で生涯セミナーや生涯学習みたいなものは、地域学セミナーしかちょっと思い浮かばないところがある。すみだ地域学セミナーもユートリアの冊子や広報誌を見ている人じゃないと、多分気がつかない人が多いと思う。本当にいいものを行っている、結構セミナーとかも行われていて、先生が来られたりされているが、なかなか発信的なところが地域に伝わっていない気がする。ユートリアはともかく、やれる場所も確かに少ないのだと思う。図書館についても、結構窓側の席だとか、予約制のスペースはすぐ埋まってしまう。特にひきふね図書館なんかは、この間久しぶりに行ってみたら全部埋まっていた。フリーでふっと行って、何かできそうなところは無さそうな感じ。そういう意味では、何かもうちょっとそういうスペースがあっても良いと思う。

（加藤部会長）

時間が過ぎておりますが、まだ何かお話をしたいことはあるか。

無ければここでまとめて移らせていただく。最後に事務局の方で印象に残ったキーワードなど、簡単に振り返りと次回の案内をお願いしたい。

（事務局）

文化芸術振興のところでは、まず守り続けるのではなく熟度を増して成熟させるという話があった。また、継承という中で、区民もストーリー性をもって区のことを知っておくということも大事という話があった。また、芸術のエリアを明確に定めて色を付けることも大事だという一方で、色んなことを知る機会を減らさないようバランスをとることが大事だというお話もあった。また、区内の子どもたちは、トリフォニーホールでの体験などの機会が充実していること、参加することも大事だし、伝えていくということと、新しいものを知ること、どちらも大事というご意見があったかと思う。

スポーツの方では、生涯スポーツとして、健康であり続けるため健康寿命を伸ば

	すとともに人生や心を豊かにすることや、スポーツは世代間のコミュニケーションを図れるものであること、生涯学習については、今まで行政が募るということをしていたが、これからは民間のサークル等を繋ぎ合わせる事が大事ではないか、こちら辺を構想の中でもうまく表現できれば良いかと感じた。学習を行うスペースの課題というのもあったと思う。 雑駁で色々と抜け落ちてしまっている部分もあると思うが、また議事録を確認しながら、今回と同じような形でまとめたものについて、また次回皆さんからご意見をいただければと思う。 次回の案内になるが、次回は 10 月 28 日月曜日、開催時間は本日同様 6 時半からでよろしいか。それでは 6 時半から、区役所 13 階の 131 会議室で開催するのでよろしくお願いしたい。 (加藤部会長) 以上で、第 3 回の部会を終了する。 解散
所 管 課	企画経営室政策担当（内線 3 7 2 2）